

単元について

- 本単元は、中学校学習指導要領外国語科（以下、学習指導要領）、「エ 書くこと（エ）身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと」の内容を受けて設定したものである。

指導する言語材料は、to不定詞である。本単元のゴールとして、職場体験を通して考えた自分の将来についての夢宣言(スピーチ)を設定した。夢宣言については、小学校の外国語活動において“I want to be ~”の表現を用いて学習しており、この表現については生徒にとってなじみのある項目となる。既習事項を活用しつつ、本単元で学習するto不定詞と組み合わせて作文に活用できるので、不定詞について理解を深められるだけでなく、表現の幅も広げることができると言える。

単元の終盤では、職場体験を終えた桃子が自分の体験をもとに将来なりたいものについて発表している。そこで、小学校外国語活動での夢宣言を想起させ、自身も経験した職場体験学習をふまえて現段階での自分の夢を「夢宣言」としてスピーチすることを単元の最後に設定した。生徒自らが進んで既習事項を用いて表現活動することが期待できる単元と言える。

- 本学年の生徒は、平成28年度広島県「基礎・基本」定着状況調査において、「適切な質問を考え英文を書くこと」の通過率は37.3%、また、「まとまりのある一貫した英語の文章を書くこと」の正答率は46.5%と、「書くこと」における定着が不十分であった。授業においても、提示された情報や語を使用して機械的に英文を書くことはできるが、文のつながりが意識できていないため、後に続く文とのつながりがないまま、与えられた情報をそのまま機械的に英文に直して答えている。本学級の生徒には、特にこの傾向が見られる。このことから課題として考えられるのは、まとまりのある文章を意識できず、文の順序や相互の関連性が作文の際に考えられていないと言える。状況や場面に応じて、まとまりのある一貫した英文を書くことが難しく、「書くこと」において課題があると言える。

- **課題の設定**の場面では、夢宣言の作成として自分の将来の夢について考える機会を設けつつ、これまでに学習した文法事項が自分の考えを発表するときに活用できることに気づかせたい。そこで、自身の体験にもとづいて夢宣言を作成することを通して、自分の進路について再認識し、それを人前で宣言し、実行していくという意識を持たせるようにするために、単元後に自分の夢についてスピーチする場を設定した。この時、小学校外国語活動で用いられたI want to be ~の表現が本単元での活動とつながり、短文で表現していたことが、スピーチ原稿を作成することを通して、まとまりのある文章として表現の幅を広げる活動になることを理解させたい。**情報の収集**では、to不定詞の形・意味・用法をおさえつつ、作文で活用できる表現に気づかせたい。夢宣言スピーチを作成するためには、自分の将来について単に夢を語るのではなく、自己の経験に基づいて今現在の自分を振り返りつつ文を作成する必要がある。そこで**整理・分析**において、自身の職場体験を振り返る機会も設ける。**まとめ・創造・表現**の場面では、活動の途中段階で作文のピアフィードバックなどの活動を通して、他の生徒

はどのような体験をしたのか、そこでどう感じ、何を思ったのか交流させることで自分の考えをまとめさせたい。また、夢宣言の原稿をグループで見比べ、それを相互評価することで、聞き手（読み手）を意識して作文活動に取り組みせると共に、自分の考えだけでなく他の生徒の考えについても再考させる機会を持たせたい。夢宣言スピーチの作成およびフィードバックの場面において、それぞれの生徒が職場体験をした場所が違うことから、他の生徒が将来についてさまざまな考えを持っていることに気づかせ、自分の考えを振り返らせたい。そのことによって、既習表現や本単元の言語材料である不定詞を表現活動に効果的に用いることを自己決定の場として指導したい。**振り返り**の場面では、再び小学校外国語活動を振り返り、本単元の学習以前と活動後の自分の表現の幅が広がったことに着目させ、単元後の表現活動への意欲を持たせたい。

単元の目標及び内容について

- 知っている語句や表現を用いて書こうとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- to 不定詞を用いて自分のしたいことや将来の夢を書いて表現することができる。【外国語表現の能力】
- to 不定詞の3つの形・意味・用法を理解している。 【言語や文化に関する知識・理解】

単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化に関する知識・理解
うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書こうとしている。	不定詞を用いて自分のしたいことや将来の夢を書いて表現することができる。	/	不定詞の3つの形・意味・用法を理解している。

指導と評価の計画

全 10 時間

時	学習活動	評 価				
		関	表	言	評価規準	評価方法
1	課題の設定 (1) ○小学校外国語活動で既習の Hi, Friends! を聞いて、活動内容を想起する。 ○単元の終わりに、自分のなりたい職業やしたいことについて英語でスピーチ (中学校版「夢宣言」) することを確認する。 ○スピーチのモデル文を提示し、発問に答えることでスピーチの内容確認と書き方を知る。				本時は評価しない	
2	情報の収集 (4) ○職場体験についてのウッド先生と由紀の会話文を読む。			○	・ to 不定詞 (名詞的用法) の形・意味・用法を理解している。	ワークシート
3	○職場体験についてのウッド先生と由紀の会話文を読む。			○	・ to 不定詞 (副詞的用法) の形・意味・用法を理解している。	ワークシート
4	○職場体験についての桃子の体験を述べた文を読む。			○	・ to 不定詞 (形容詞的用法) の形・意味・用法を理解している。	ワークシート
5	○教科書の本文を参考に、自分の職場体験の記録と比較し、スピーチで使える表現を知る。				本時は評価しない	
6	整理・分析 (1) ○スピーチに用いる内容を職場体験の記録から選択し、どのように話したら聞き手に伝わるか検討する。				本時は評価しない	
7	まとめ・創造・表現 (3) ○スピーチ原稿を作成する。 ○小グループで、それぞれの英文について情報交換し、自分のライティング活動につなげる。	○	◎		・うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書こうとしている。 ・ to 不定詞を用いて自分のしたいことや将来の夢を書いて表現することができる。	行動観察 ワークシート
8	○相互評価し、意見や助言を参考に英文の加筆修正を行う。 ○スピーチ原稿の内容に合った発表の仕方を工夫する。	○	◎		・うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書こうとしている。 ・ to 不定詞を用いて自分のしたいことや将来の夢を書いて表現することができる。	行動観察 ワークシート
9	○職場体験に基づいて「夢宣言」の文章を見比べてグループで交流し、原稿を仕上げる。【本時】			○	・ to 不定詞を用いて自分のしたいことや将来の夢を書いて表現することができる。	ワークシート

時	学習内容	評価				
		関	表	言	評価規準	評価方法
10	振り返り(1) 学びのモニタリング ○ALT やクラスメートの意見や助言を受けて、学習活動の自己評価、相互評価等を行う。				本時は評価しない	

※後日、ALT の前でスピーチ発表をする。

本時の学習

(1) 本時の目標

- 自分のしたいことや将来の夢についてのスピーチ原稿を書くことができる。

(2) 本時の評価規準

- to 不定詞を用いて自分のしたいことや将来の夢を書いて表現することができる。

【外国語表現の能力】

(3) 本時の学習展開 (9 時間目 / 全 10 時間)

学習活動 ○主な発問 ・予想される生徒の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす生徒の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した 生徒への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 Greeting (3分) ○Hello! How are you? ...etc. めあて _____ 自分になりたい職業やしたいことについて夢宣言の原稿を仕上げよう。		
本時のゴールの見通し A : to 不定詞や既習事項を用いてスピーチ原稿として適切に自分の考えを書くことができる。 B : to 不定詞や既習事項を用いて自分の考えを書くことができる。		
2 前時までの学習を振り返り, 本時の学習課題を確認する。(10分) ○We're going to share the speech each other. But before doing that, you can check your speech again. We have only 10 minutes to check.	◇前時に完成させた夢宣言を見直す時間を取る。 ◇聞き手のクラスメートに伝わるように発表するように指示する。 ◆使用可能な語句や発音を再確認しておく。 ◆机間支援し, 提示した評価基準を意識させる。また, 読み・意味の確認を補助する。	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される生徒の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす生徒の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p> <p>☆育成したい資質・能力</p>
<p>3 各グループで一人ずつ夢宣言スピーチを行い,互いの原稿を見ながら評価し合う。(30分)</p> <p>○Let's start the "Yume-sengen" speech.</p> <p>Listeners will write some comments about the speech.</p> <p>Check the writing points again.</p> <p>・グループ内で発表し,原稿を互いに見比べてコメントを書く。</p> <p>・提示された評価基準を参考に,評価コメントを書き,互いに評価し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>□思考の場の工夫 ピアフィードバック</p> <p>夢宣言スピーチの相互評価をすることで,互いの考えやその表現方法の違いを意識し,自分の作文を修正することができるようにする。</p> </div> <p>4 フィードバック (4分)</p> <p>○Where did you work?</p> <p>○What did you do there?</p> <p>○What do/did you like to do?</p> <p>○What do/did you want to do?</p> <p>○What do/did you think?etc.</p> <p>5 本時の振り返り (3分)</p>	<p>◇生徒が互いにどんな考えをもっているのか,どう表現しているのか,それぞれの発表原稿の違いに気づかせる。また,自分のスピーチ原稿の参考になる英文を見つけるよう促す。</p> <p>◇相互評価のためのポイントを提示し,発表者に相手意識を持たせつつ,聞き手には話し手の発表に集中させる。</p> <p>◆机間支援し,内容が理解できない場合はヒントを与えるなど補助する。</p> <p>◇印象的だった夢宣言を一部紹介し,発表者に質問するなどして個々の振り返りにつなげる。</p>	<p>☆間違いを恐れず,既習事項を用いて自分の考えを伝えようとする力。</p> <p>◎to不定詞を用いて自分のしたいことや将来の夢を書くことができる。〔外国語表現の能力〕(行動観察)</p>
<p>★めざす生徒の姿</p> <p>I had my work experience at a nursery school.</p> <p>I learned a lot of things. I had a wonderful time there.</p> <p>In the future I want to be a nursery school teacher.</p> <p>I like to play with children. I'd like to take care of children.</p> <p>To be a nursery school teacher, I'll study music a lot.</p> <p>Thank you.</p>		

(4) 板書計画

タイマー	Thursday, October twenty-seventh, sunny
Today's goal 自分のなりたい職業やしたいことについて夢宣言しよう	
原稿チェックポイント	
①自分が行った職場体験場所が書かれているか。	④何をするのが好きなのか。
②そこで何をしたか。	⑤将来, 具体的にやりたいこと。
③将来何になりたいと思うか。	⑥そのために, これからやろうと思うこと。